

レアメタル資源再生技術

日米欧台の現状報告

研究会開く

【名古屋】レアメタル資源再生技術研究会(会長＝藤田豊久・東京大学教授)は19日、名古屋市熱田区の名古屋市工業研究所で「第14回レアメタル資源再生技術研究会」を開催した。今回のテーマは「米・欧・台・日 資源リサイクルの現状」。会場には会員など約110人が参集し、熱心に講演を聴講した。

冒頭、藤田会長があ



あいさつする藤田会長

いさつに立ち、各国から訪れた講師を紹介した。講演会では冒頭、経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課の辻本圭助課長が「鉱物資源政策の現状と課題」をテーマに講演した。

台湾からは台湾国立成功大学の張祖愷教授が「台湾における環境保護に関する政策及び廃棄物処理」、台湾資源再生協会の蔡敏行創会理事長が「台湾における金属リサイクルの概況」、鉄、アルミ、鉛、亜鉛篇について講演。

米国からは米国ウースター工科大学金属処理研究所のフラジエンドラ・ミシユラ所長が「希少金属のリサイク

ル」材料持続性への道について、E.Uからはヘラルド R. F. アルベア・フロレス博士が「ヨーロッパから見た最高水準のリサイクル」をテーマに講演を行った。研究会開催後には懇親会が催され、参加者は交流を深めた。